

<テーマ 1> 「平成 31 年度石狩市教育予算要望書」の原案検討について

- (2) 「理科実験費」について、正しい名称、要望書内で統一した文言で載せる。
- (3) 司書の人的配置要望部分 事務部会で前面に出してよいものか？…触れることは必要では。
- (4) 樽川中石狩太鼓部の部分は再度検討。
- (8) 次の増税についても触れる。

その他、誤字脱字のチェック。再度検討したものは事前にメールで提示、8 月 31 日会議で確認する。

<テーマ 2> PF シートを用いた保護者負担調査の結果とデータの活用について

他の人と情報を共有し、今後の各校の取組に生かしていくことを目的として、カテゴリー分類表による演習を 3 グループに分かれて行った。

自校の前年度と今年度の比較や、他校との比較からわかったことや、改善方法等を交流した。



<テーマ 3> 保護者向け「事務だより」を作ろう～作成の意義とポイント～

講師に千歳市立桜木小学校の高嶋 学さんをお迎えし、事務職員の情報発信について学んだ。

千歳市では全校予算の公開を目指しているとのこと。学校だよりにより事務担当コーナーを作るという方法もある。

担任等の教諭、養護教諭がおたよりを出すように、事務職員もおたよりを出すことは当たり前という考え方に目からうろこだった。反応はなくても、親はけっこう見ているもの。また、未納が減ったことがどのように事務だよりと関係しているかなど興味深い内容であった。

<テーマ 4> 学校事務職員の今後の働き方と共同学校事務室について考えてみよう～全国事務研参加報告を交えて～
全校事務研へ参加した細川貴史さん、斎藤大輔さんから報告していただいた。

共同学校事務室については全国各地域により、様々な状況である。

「つかさどる」に変わったことや働き方改革にからみ、事務職員に求められる資質・能力が今までと変わっている。時代の流れについていけるか、いけているか。ミドル層のキャリアアップやスキルアップのための研修が必要になってくる。

しかしながら、学校事務職員の職務や研修について明記するのもよいが、あまりにも細かいとそれに縛られて動けなくなる可能性もあるとの大学教授の指摘があったとのこと。

Society5.0(サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合)という初めて聞く言葉もあり、今後さらに勉強しないと取り残されてしまうという危機感を感じた。

また、今後は、石狩市で共同学校事務室をやるとなった時のための準備をしておく必要があるのでは。まずは現実をよく見て計画を立てることが大切であるとの意見が出た。

私見であるが、北海道らしく「子どものため」という気持ちを忘れず、時代の流れと融合していくことが理想、それを作るのは自分たちなのだと感じた研修会だった。

